

[平成21年12月15日産業環境委員会－12月15日-01号]

◆芝田 委員 お疲れさまでございます。公明党の芝田でございます。本日は、観光について、まず産業観光、そしてベイエリア観光、障害者の観光施策について3つに視点を定めて質疑をさせていただきたいと思っております。

我が市は、海もあり、そして、また文化、歴史のある観光資源が豊富な自治体であります。都市間競争の中で、いわゆる少子高齢社会の中でしっかりみずから自治体が知恵を出して、行動して、そして、人口を誘導し、そしてまた税源を生み出すという、こういう時代の中で観光施策を進めていただいているわけですが、今回は先ほど言いました3点に絞って質疑をさせていただきたいと、このように思います。

そこで、まず観光振興施策についてであります。本市の観光振興施策の動向、特に誘客、外国人観光客の動向についてお示しさせていただきたいと思っております。

◎藤田 観光企画課長 観光振興による誘客の動向と外国人観光客の動向でございますが、本市では、堺の歴史文化を観光振興の中心テーマといたしまして、情報発信、PR活動、受け入れ体制、ホスピタリティーの充実、集客観光地としての魅力創造、この3つを施策の3本柱といたしまして、事業の推進に努めてまいりました。こういった取り組みの成果でございますが、まず堺観光周遊バス助成制度を利用しましたバスツアーの実績で申し上げますと、平成19年度は年間136件のツアーに合計4,453名が参加、平成20年度は198件のツアーに7,025名の参加がございました。前年度比で申し上げますと、ツアー件数で146%、参加者数で158%となっております。また、今年度は10月末現在で、119件、4,500名の参加がございまして、既に前年の同時期を上回っておる状況でございます。

また、堺観光の基点として、360度の眺望を楽しんでいただいております堺市役所の21階展望ロビーのほうでございますが、平成19年度の来場者が年間18万人、平成20年度が年間24万人となっております。こちらのほうは前年比で133%となっております。このほか、観光案内所の利用者数でありますとか、堺刃物伝統産業会館の来訪者、また観光レンタサイクルの貸し出し数といったところも平成18年度から19年度、20年度、21年度と継続して増加しておる状況でございます。

外国人観光客につきましては、現在国際観光の取り組みといたしまして、アジア諸国を対象に観光プロモーションでありますとか、現地のエージェントを堺のほうに招待するファミトリップの実施、また関西国際空港と連携しましたツアーの企画などに取り組んでおります。外国人観光客の推移につきましては、現在のところ、堺ホテル協会に加盟しておりますホテルの宿泊者数といったところをつかんでおります。参考までに申し上げますと、平成18年度外国人の宿泊者数が6万1,123人。19年度が6万5,947人と増加してまいりましたが、20年度は4万7,511人となっております。これは昨年秋以

降の世界同時経済不況により、訪日の外国人観光客全体が減少したことによるものと推測しております。以上でございます。

◆芝田 委員　ご答弁の中で、ほとんどの数値が上がってるということで、我が市の観光の誘客、また外国人の観光客は諸事情によって20年度は世界同時不況により減少ということでありませけれども、ポテンシャルが高いというか、もともと私は堺が、先ほど言いましたように、訪れたいまち、そしてまた訪れたい観光都市だというふうなことの裏づけだと思えますし、これに甘んじることなく、進めていただきたいなと思えます。

先月、我が会派で秋田県の角館の旧武家屋敷等を観光施策の一端として視察をさせていただきました。驚いたことに、大阪なんかでもミナミ、キタにおいても中国人とかアジアの人が買い物ツアー等でお見かけするわけですが、秋田県の、いわゆる片田舎と言うと失礼かも知れませんが、そういったところで外国人が来られているということで、直行便が秋田空港にあるということで、このボーダレス社会というか、経済成長の著しい中国等、東南アジアにもしっかりと誘客に力を入れていただきたいなというふうに思っております。

公明党が平成22年度の予算要望をさせていただきました。産業環境関係、我が会派は常任委員会ごとに項目を設定させていただいております。その6つの中の1つに本市の先端企業、伝統産業などをめぐる産業観光ネットワークの構築と、受け入れ体制の整備に取り組むことということで、要望させていただきました。本市の産業観光の現状と課題と今後の方向性についてお聞かせ願いたいと思えます。

◎倉 観光推進課長　産業観光の現状と課題、それから今後の方向性ということでございますが、まず産業観光につきましては、現状ということでございますけれども、産業観光の本市にございますたくさんの産業資源、これを観光振興に生かすことによりまして、産業の活性化を図るとともに、誘客の促進、そして、堺らしさのある魅力の発信に資するというのを目的といたしまして、本年7月10日に堺商工会議所が中心となって産業観光推進協議会が設立をされたところでございます。その協議会設立後の取り組みといたしましては、市内事業所へのアンケート調査や個別のヒアリングなどを通じまして、産業観光への協力意向等の把握に努めるとともに、現在はパンフレットの作成に向けました最初の集約作業を行っているというところでございます。9月末の第一次時点での集約状況でございますけれども、見学可能な事業所としてご協力にお手を挙げていただいているところにつきましては、線香や刃物などの伝統産業系で20事業所、その他の事業所が8事業所、計28事業所のご協力が得られてるというところでございます。以上が現状でございます。

課題といたしましては、本市の先ほどのアンケート調査の中で、各事業所からご意見を拝聴しておりますけれども、受け付けとか説明にかかる事業者の負担が増すというふうなことへの懸念が一部ございます。そういう意味では、何らかの受け入れ体制についての支援が必要ではないかなと、このように考えているところでございますけれども、産業観光

の効果といたしましては、企業の社会貢献、またPR強化を初め、販路の拡大であったり、消費者ニーズの把握であったり、人材の育成、技術伝承などにつながると、こういった点について期待をお寄せの事業所もたくさんございますので、今後はこういった事業所の協力拡大を求めていく、先ほど28事業所から現在ご協力をいただいているというふうに申し上げましたけれども、今後さらに協力事業所の拡充を図っていくという観点からは産業観光についてのPRの徹底であったり、説明、情報発信の強化といったものが必要になってくるのではないかなと、このように考えてございます。

本市の産業構造の特色づくりといったことも考えながら、この間の協議会の中でも今後さらなる協力企業の拡充を図るようにと、こういったご意見もいただいておりますので、よりよい情報発信ができるように今後も努めてまいりたいと考えてます。以上でございます。

◆芝田 委員 次に、ベイエリアの観光ということで、シャープの液晶コンビナートが稼働いたしまして、新聞等では来年10月から本格稼働ということでありまして、また4月からは、太陽電池の薄膜太陽電池工場も稼働すると。そしてまた、そこに多くの企業がいろいろなものを供給すると、そして、またクラスターもいよいよこれからかかるということでありまして、また従来の7-3区等でも、我が市の埋め立てですね、7-3区の中で操業されているところもあるわけです。そういった意味で、先ほどの産業観光とまた重なる点もあるかもわかりませんが、海のこの立地、まだまだ稼働はこれからということもありますけれども、ベイエリア観光について現状、そしてまた課題についてお聞かせ願いたいと思います。

◎倉 観光推進課長 ベイエリアという限定でございます。まず本市のここの観光振興の重点ということにつきましては、文化観光戦略再生プランにおきまして、旧市街地エリア並びに百舌鳥古墳群・大仙公園エリア、この2つのエリアを観光振興の二大拠点とすると、こういう考え方で、これまでの観光振興に努めてきたところでございますが、今委員ご指摘のように、本市の臨海部におきましては、グリーンフロント堺が10月から一部稼働しておりますし、大阪ガスのLNG発電でありましたり、関西電力のコンバインド発電といった施設も整備をされております。また、優れた再資源技術を有する企業群も集積をしていると、こういった状況の中に、さらには7-3区で来年の11月以降の一部供用開始というふうなことを視野に入れながら、メガソーラーの建設も進められると、こういった状況として非常に臨海部での企業立地としての魅力の集積が進んでいる状況でございます。

工業系以外の土地利用としましては、堺浜シーサイドステージのように商業アミューズメント施設のほか、来年4月に開設をいたしますサッカー・ナショナルトレーニングセンターにおきましては、年間50万人の集客を見込んでいますと、こういうことございますから、こういった効果を地域経済の活性化やにぎわいづくりに生かしていくことも重要な課題ではないかなというふう考えております。

あと、こうしたエリアの中で、臨海部がかなり人の動きも含めて今後大きく変わっていくという状況でございますけれども、本市には歴史的に価値の高い旧堺港エリアもございますので、臨海部のさらなる魅力を活用しながら、堺の新たな観光づくり、また魅力づくりを進めていくために、こういった海の資源を活用しながら観光振興の観点から生かしていくための戦略づくりが重要であると。そのため、現在、例えば、船に乗りまして、我々が船に乗って、臨海部でございます産業の状況、景観、また資源の分析といったことも行っておりますし、先進事例の収集ということも行っております。こういったことも踏まえながら、観光振興の魅力につながるような基本的な考え方といったことを取りまとめていく必要があるのではないかなと、このように認識をしております。以上でございます。

◆芝田 委員 我が市は企業立地、誘致にも私は成功したと思いますし、また、その効果がこれから出てくるわけでありませうけれども、もともといわゆる企業を誘致して、そこで雇用の確保とか、そしてまた税源の涵養というような視点がありますけれども、ありがたいことに、そこがまた海の埋め立てのところということで、大阪府内におきましても、他府県におきましても海を擁する自治体は限られているということでもあります。そういった意味で、長年旧港の活性化とか、そしてまた先ほども議論させていただきましたけれども、いわゆる工場等の産業の観光も一つ大きな観光資源になっていくわけでありませうけれども、堺市におきましては、この観光の議論、特に昼からも小郷委員のほうからも、いわゆる旧堺病院の跡地利用についての議論もあったわけですが、我が会派においてもこれからまとめていかなければいけない問題なわけでありませうけれども、いわゆるこの仁徳陵の中心と、そしてまた旧市街地というのは大きな観光のネットワークになるわけでありませうけれども、二大戦略拠点と位置づけられているわけでありませうけれども、ここに海のこのベイエリアのことをどうリンクさせていくか、そして、また施策をどう組み立てていくかという大きな課題があるわけですが、その辺を当局は現在どのように考えられているかお聞かせ願いたいと思います。

◎倉 観光推進課長 まさに、今、委員ご指摘のとおりでございますし、先ほども申し上げましたように、観光振興の二大戦略拠点としてのコアをなす一つの施設が文化観光拠点であるというふうに考えておりますが、歴史文化のこれまで培ってきました観光の事業に加えまして、ベイエリアの魅力を活用した観光振興を図ることによって、さらに堺の観光の魅力づくり、また、それが他の市町村との差別化の形成であるというふうなことの中の観光の強みという形に生かしていくことが非常に重要であるというふうに考えておりますので、臨海部、旧市街地、百舌鳥古墳群、大仙エリア、これらをつなぐような観光振興の東西軸をつくっていくということが我々のこれからの考え方の中では重要になってくるというふうに考えてございまして、その起点になり、コアになるのが文化観光拠点であるというふうに思っておりますし、それができますことによって、より一層の集客魅力の情報発信につながっていくのではないかなというふうに思っております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、ベイエリアの観光の具体的事例より進んでイメージがおありなのか、特にいよいよ明年度の予算編成も本格化するわけですが、その辺のお考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

◎倉 観光推進課長 今、委員のほうからもご指摘がございましたように、まさに今、来年度の予算編成に向けまして我々内部で議論をさせていただいているところでございます。予算要望に当たりましては、ベイエリアの観光振興というのは新たな取り組みということになってまいりますので、その進め方についての基本的な考え方といったものをまとめていながら、それを実現化させるための方策を予算として計上させていただきたいというふうに思っております。景観形成であったり、また、集客促進につながるような事業であったりということイメージしながら、今申し上げましたように基本的な考え方の中にその事業の具現化する方策については示していったら、予算として明らかにさせていただきたいと、こういうふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上です。

◆芝田 委員 基本的な考え方の策定等を進めるということですが、これは当局は独自で計画、民間委託せずにやられるということですか。

◎倉 観光推進課長 ご指摘のとおり我々が一生懸命頑張っていくということで、非常につたない計画になるかもわかりませんが、努力をしたいと思っております。以上です。

◆芝田 委員 新しい市長も余り丸投げは嫌ってるみたいですから、しっかり皆さん当局が汗をかいて、知恵を出して、進めていただきたいというふうに思います。

それでは、3つ目の視点の障害者の観光施策についてお伺いいたします。ユニバーサルツーリズムというのが今言われておりますけれども、どういうものかお答え願いたいと思います。

◎藤田 観光企画課長 ユニバーサルツーリズムについてでございますが、これは障害者の方、あるいは高齢者の方、外国人といった方、だれもが安全で快適に気兼ねなく旅行、観光を楽しむこと、あるいはまたそのために必要な環境を整えるための取り組みのことを指すものと認識しております。障害者や高齢者といった社会生活弱者といわれる方々がなれない地域で旅行を楽しむためには、その旅行の目的地の施設の状況でありますとか、移動手段の状況、また現地での介助の有無といったバリアフリーに関するさまざまな情報が必要になってくるわけでございます。一般的な取り組みといたしましては、例えば、トイレ、エレベーターといった施設面でのバリアフリーの状況でありますとか、また観光案内の言語表記、観光案内所での外国語を含めた対応、また人的なサービスとしての介助の有無、こういったものがあるものと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 障害者の観光施策と申しましたけども、今答弁の中で障害者や高齢者、そしてまた高齢者でも要介護者というか、介護を必要とする方も含まれるということになります。本市におきまして、約84万人のうち約22%が65歳以上の高齢者というこ

とでありますし、そのうちの8割が元気な高齢者、いわゆる介護も受けていないということでもあります。本日はそういう障害者と高齢者、また介護を必要とする方も含めて、こういった施策を議論をしていきたいと思っております。

新聞では、障害者が旅行する場合、通常は家族や介助人が同行し、費用がかさむ上、ホテル、交通機関を探すのに手間がかかる、車いすで利用可能な飲食店やトイレなどを確保するのに情報が少ないのが実情だということで、実際、旅行はしたいけどもなかなか費用もかかり、またそういう手立ても複雑で時間がかかるということでもあります。こういった取り組みを進める先進事例がありましたら、ご紹介いただきたいと思っております。

◎藤田 観光企画課長 ユニバーサルツーリズムの関係での先進的な取り組みとしましては、岐阜県高山市でありますとか三重県の伊勢志摩地区。また、長崎県の事例がございますが、政令指定都市でいいますと、神戸市の事例が今委員お示しの障害者、また高齢者の方の旅行のコーディネーターといった部分に相当するものになるのかなと思っております。神戸ではNPO法人が中心となりまして、ユニバーサルツーリズムコンシェルジュ神戸と呼ばれる介護支援のサービスを行っております。これは何かと申しますと、障害者や高齢者といった方々の観光サポートや観光関連のバリアフリーの情報を提供するということが中心になっているサービスでございます。具体的に申しますと、利用される方がこの事務局のほうに連絡をとりまして、必要なサポート項目を伝えると。この連絡を受けた事務局は、旅行関連のさまざまな事業者、例えばタクシーでありますとか、ホテル、レストラン、また、ヘルパーといった方に連絡をとりまして、受け入れ可能かどうかを確認すると。それを利用者に伝えるといった仕組みでございますが、これを利用するには、コーディネーター料という部分が必要になってくるわけでございますが、利用者の立場に立ってみますと、実際に必要なサービスのみを的確に手配することができる。またワンストップサービスといいますか、1つの窓口で旅行の手配を完了できるように、実際に旅行者が個別に調整をすることに比べて、格段に負担が少なくなると、こういった状況でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 それじゃ、本市のこのユニバーサルツーリズムについての現状はどのようなものかお答えください。

◎藤田 観光企画課長 本市では、平成18年9月に策定しました堺市文化観光戦略プランに基づく受け入れ体制の整備としまして、これまでユニバーサルデザインの一環としまして、観光サインの整備でありますとか、観光マップ、観光のPRビデオなどにつきまして、外国語対応でありますとか、ピクトグラムによる表記といったものに取り組んでまいりました。また、観光関連の施設で申しますと、昨年平成20年3月にリニューアルいたしました市役所21階の展望ロビーの改修におきまして、子どもさんや障害者、車いすの方が眺望を楽しむことができるように可動式のステップを設置したところでございます。また、堺東の観光案内所におきましては、フロアの段差の解消でありますとか、車いすの方が利用しやすいような高さのカウンターを設置するといった形でバリアフリーへの対応

を行っております。こういった取り組みをやっておるところでございますが、先ほど先進事例としてご説明いたしました神戸市の取り組みのような総合的なユニバーサルツーリズムの取り組みまでには至っていないというのが現状でございます。以上でございます。

◆芝田 委員　それでは、本市は今後どのようにこの施策に取り組んでいかれるかお聞かせください。

◎藤田 観光企画課長　先ほど委員のほうから本市の高齢化率のお話ございましたが、そういった点からもますますこういうユニバーサルツーリズムの視点というのが重要になってくるものと考えております。また、本市の豊かな歴史文化、こういったものの観光資源をあらゆる人が楽しむことができる観光都市というのは、住む方にとっても安全で快適なまちづくりにつながっていく、住んでよし、訪れてよしのまちづくりの視点からも、今後この実現に向けた取り組みが求められるものと考えております。

本市におきましては、こういったユニバーサルツーリズムの対応を進めていくためには、まず一つは施設面、あるいは交通、道路といったハード面でのバリアフリーの対応、もう一つは介助やサポートの仕組み、あるいはいろいろな料金の割引といったソフト面での支援による受け入れ体制の充実、そして、最後にはこれらハード、ソフト面を合わせた総合的な観光情報の集約と提供、こういった3つが必要であると考えております。

今後、先ほどの先進事例を参考にしながら、堺に適したユニバーサルツーリズムのあり方につきまして、ホテルを初め、民間の事業者を交えて調査研究を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員　答弁いただきましたけど、バリアフリーとかユニバーサルデザインのいろんな面で進捗がありますけれども、当局の考えはいわゆる余り人ごとのような気もするわけです。これからホテルとか民間事業者と調査研究していくということでもありますけれども、そういう意思が当局にあるかどうか。ますますこれから高齢社会の中で、体も弱くなっていると。ただ、やはり元気なうちというか、観光に訪れたいという、堺だけではありませんけれども、そういった中で本市がそういったことも前向きにとらえていただいて、いろんなことがあるでしょうけれども、積極的に取り組んでいただきたいなというふうに思います。

先ほど言いましたように、ホテルガイドなどを一括手配、いわゆるNPO等が入って施策に行政と一緒に汗をかくということもしているわけですし、また、松江市、ご存じ島根県の城下町の松江市でありますけれども、人口はもちろん堺市よりも少ないわけですが、この8月にバリアフリーツアーセンターを立ち上げた。1、ボランティアの観光ガイド。2、入浴介助。3、視覚障害者のガイド支援。いずれも有料と。この3つの柱でNPO法人のプロジェクトゆうあいが運営するというであります。同市はことしから施行した人に優しいまちづくり条例に国際文化観光都市にふさわしいおもてなしを推進する方針、観光振興課が策定したみたいですけども盛り込んでおります。これに先立ち、昨年10月には視覚障害者を対象に、モニターツアーを実施したというようなことで、早く

こういった障害者の観光施策に取り組んでおられますけども、最後に観光部長何かこの件に関して決意とか、また何かご表明がありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

◎坂本 観光部長 堺の観光におきましては、堺の歴史文化を中心とした観光振興を現在図っているところでございます、この中ではやはり熟年層や中高年層の方にこの歴史文化を特に人気があるところでございますので、先ほどから委員ご指摘のユニバーサルツーリズムにつきましても高齢化社会を迎えている中で非常に重要なことだと認識しております。今後、民間事業者の方や各種観光団体の方とも連携いたしまして、堺にふさわしいユニバーサルツーリズムのあり方について積極的に取り組んでまいりたいと思っております。以上であります。

◆芝田 委員 ありがとうございます。いろんなことがあって、公務員の皆さんも仕事があれですけども、やはり今の時代に合った、またこれだということをまずみずから調査して、本市でどのように取り組んでいくかという、汗を流すことによって、そこでいろんなことが見えてくると思いますし、先ほどの観光のいわゆるベイエリアのこともそうですけども、やはり丸投げすると、そこには無責任さも生じますし、また、やるだろうというようなことがあるわけですけども、やはり私はそこに飛び込んでいろんなことを、最初ですからありますけれども、その中でいろんなことを情報収集できますし、またいろんなネットワークもそこから広がるわけでありまして、一つの障害者の観光施策でありますけれども、大きな我が市のポテンシャルを最大限生かすためにも、いろんな視点に積極的に取り組んで、自前で汗をかいて大きく観光施策を進めていただきたいと思いますことを要望いたしまして、質問を終了させていただきます。ありがとうございました。